

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	人間発達学		学科名	理学療法学科	講師名	藤井 玲子
時間数	30時間				実務経験の有無	無（心理療法士として5年勤務）
学年・学期配当		1年次2年次		前期後期通期		
目的・ねらい		1.医学を基礎とした人間の生涯発達を理解する 2.マイルストーンを理解する 3.発達のメカニズムを理解する 4.各発達段階における運動機能・認知機能・心理社会的機能の発達を学ぶ				
授業全体の 内容の概要		1.人間の成長と発達の基礎知識 2.発達理論 3.人間の成長と発達（各発達段階における諸機能の発達と特徴）				
授業修了時の 達成課題 （到達目標）		1.正常発達を理解している 2.発達理論を運動学習に結びつけることができる 3.発達過程を理解し、順序に沿った介入ができる				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	オリエンテーション 成長・発達とは、成長・発達の原則・法則			教室
	2	講義	成長・発達に影響する要因			教室
	3	講義	発達理論・・・フロイト、ピアジェ			教室
	4	講義	発達理論・・・ハヴィガースト、エリクソン他			教室
	5	講義	人間の成長と発達・・・胎生期			教室
	6	講義	人間の成長と発達・・・乳児期			教室
	7	講義	人間の成長と発達・・・乳児期			教室
	8	講義	人間の成長と発達・・・幼児期			教室
	9	講義	人間の成長と発達・・・学童期			教室
	10	講義	人間の成長と発達・・・青年期			教室
	11	講義	人間の成長と発達・・・成人期			教室
	12	講義	人間の成長と発達・・・老年期			教室
	13	講義	人間の成長と発達・・・老年期			教室
	14	講義	発達期における各機能の発達と障害の関係一覧			教室
	15	講義	まとめ			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		テキスト：人間発達学ワークブック 参考文献：2026年年度版 人間発達学 医学書院 第3版				
評価方法		出席.授業態度（レポート提出）試験				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	物理学		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当	1 年次2 年次		前期後期通期			
目的・ねらい	身体運動を理解するために必要な物理学の基礎知識を身につける。					
授業全体の内容の概要	基本動作の観察評価に必要な力学的な考え方を学ぶ。また、共通科目として国家試験で出題される内容や計算についても学習する。					
授業修了時の達成課題（到達目標）	基本動作の観察評価に必要な力学的な考え方を理解できる。					
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	運動の変数①			教室
	2	講義	運動の変数②			教室
	3	講義	練習問題・運動の変数			教室
	4	講義	運動学・運動力学の基礎①			教室
	5	講義	運動学・運動力学の基礎②			教室
	6	講義	関節モーメント①			教室
	7	講義	関節モーメント②			教室
	8	講義	まとめ			教室
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・無し ない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		テキスト：特に指定しない。 参考文献：基礎バイオメカニクス第2版				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	コミュニケーション論		学科名	理学療法学科	講師名	谷永 憲史 道広 博之
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務（道広）
学年・学期配当			1 年次 2 年次		前期 後期 通期	
目的・ねらい			肯定的相互尊重の姿勢を持ち、自己肯定感が高く、主体性を持って行動できる自立した人材を育成する			
授業全体の 内容の概要			対人コミュニケーションにおいて、自分も相手も大切にする姿勢を重視し、対象者との良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を生かすことで信頼関係が生まれ、専門家としての知識・技能が発揮できることに繋がることを、座学、RP、体験談を踏まえて進めていく（1～11・14・15回谷永・12回道広）			
授業修了時の 達成課題 （到達目標）			接遇の「評価表」の18項目を5段階で全て3以上とする（定量にて数値化）			
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	医療の特性を把握、自己概念・自己肯定感			教室
	2	講義	自己理解を深める、自己自身の態度			教室
	3	講義	自我状態、3つの交流パターン			教室
	4	講義	存在認知の活用法、言語・準言語・非言語			教室
	5	演習	【接遇】「見る」の定義、「聴く」の定義			教室
	6	演習	【接遇】「伝える」の定義、自己主張の仕方			教室
	7	講義	自分自身の状態、怒りのコントロール			教室
	8	演習	【接遇】自分の将来を描く、言葉・表情・お辞儀			教室
	9	演習	【接遇】場面別マナー、電話の架け方・出かた			教室
	10	講義	ビジネスメール、オンラインコミュニケーション			教室
	11	講義	実習先へのお礼の手紙の書き方、医療面接			教室
	12	講義	理学療法士としての現場でのコミュニケーションについて①			教室
	13	講義	理学療法士としての現場でのコミュニケーションについて②			教室
	14	演習	【接遇】質問の仕方、話す技術			教室
	15	講義	聴く技術、困ったときのコミュニケーション			教室
		試験				
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			医学書院出版 コミュニケーション実践ガイド 第3版			
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	リハビリテーション概論 (地域包括ケアシステムを含む)		学科名	理学療法学科	講師名	熊田 健司
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		リハビリテーションの意味を理解する。 多職種連携の重要性について学ぶ。 臨床における心構えを理解する。				
授業全体の 内容の概要		理論的・概念的な内容となりますが、理学療法士としての役割・考え方・心構えなどを臨床の話を交ぜながら、お伝えしたいと考えます。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		リハビリテーションの理念・定義・考え方を正しく理解する。 多職種連携（チームアプローチ）の重要性について理解する。 地域包括ケアシステムの中でのリハビリテーション職種の役割を理解する。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	リハビリテーションの概念・理念・定義			教室
	2	講義	健康と障害の概念と分類			教室
	3	講義	障害の心理的・社会的視点			教室
	4	講義	リハビリテーション過程			教室
	5	講義	リハビリテーションの諸段階			教室
	6	講義	医療とリハビリテーション専門職と役割			教室
	7	講義	チームアプローチ			教室
	8	講義	ADL・QOLの概念と評価法			教室
	9	講義	地域リハビリテーションの考え方・実際			教室
	10	講義	医療・介護保険制度の変遷			教室
	11	講義	介護保険サービス概論（介護保険の仕組み）			教室
	12	講義	地域包括ケアシステムと理学療法士の役割			教室
	13	講義	介護予防と健康増進			教室
	14	講義	住環境整備			教室
	15	講義	対人援助技術			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		特になし				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。（出席率・受講態度等）				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	保健体育		学科名	理学療法学科	講師名	宮本 淳
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		自身の健康についての意識や身体活動について考え、さらに体を動かすことの楽しさを実感することやクラスメートとの親睦を図ることを目的とする。				
授業全体の内容の概要		健康・体力の維持・増進を図るため、身体運動及びスポーツの実習を通じて自主的・合理的に生涯にわたる自己の心身の健康管理及びスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を育成する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	実習	運動・スポーツ実践①			施設等
	2	実習	運動・スポーツ実践①			施設等
	3	実習	運動・スポーツ実践①			施設等
	4	実習	運動・スポーツ実践①			施設等
	5	実習	運動・スポーツ実践①			施設等
	6	実習	運動・スポーツ実践②			施設等
	7	実習	運動・スポーツ実践②			施設等
	8	実習	運動・スポーツ実践②（レクリエーション・地域交流）			施設等
	9	実習	運動・スポーツ実践②（レクリエーション・地域交流）			施設等
	10	実習	運動・スポーツ実践④ 球技			施設等
	11	実習	運動・スポーツ実践④ 球技			施設等
	12	実習	運動・スポーツ実践⑤ 球技			施設等
	13	実習	運動・スポーツ実践⑤ 球技			施設等
	14	実習	運動・スポーツ実践⑥ 球技			施設等
	15	実習	運動・スポーツ実践⑥ 球技			施設等
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		電子書籍等				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、レポート、受講態度をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	内科学Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当			1年次2年次		前期後期通期	
目的・ねらい			全身的な内科疾患の内、理学療法の対象となる疾患について理解する。			
授業全体の内容の概要			「解剖学」「生理学」の基礎を学んだ上で、症候のメカニズムや各疾患の特徴の捉え方との関連づけを図る。適宜、治療薬についても説明する。			
授業修了時の達成課題（到達目標）			内科的病気の基礎を知り、リハビリテーションの概要を理解する。			
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	呼吸器疾患（評価）			教室
	2	講義	呼吸器疾患（換気障害の分類①）			教室
	3	講義	呼吸器疾患（換気障害の分類②）			教室
	4	講義	呼吸器疾患（画像）			教室
	5	講義	呼吸器疾患（薬剤）			教室
	6	講義	膠原病・自己免疫疾患①			教室
	7	講義	膠原病・自己免疫疾患②			教室
	8	講義	膠原病・自己免疫疾患③			教室
	9	講義	腎・泌尿器疾患①			教室
	10	講義	腎・泌尿器疾患②			教室
	11	講義	消化器系疾患①（肝臓・胆嚢・膵臓）			教室
	12	講義	消化器系疾患②（肝臓・胆嚢・膵臓）			教室
	13	講義	消化器系疾患③（食道・胃・腸）			教室
	14	講義	癌			教室
	15	講義	まとめ			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			テキスト・特に指定しない。参考図書・クエスチョンバンク理学療法士作業療法士共通問題			
評価方法			筆記試験			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	外国語		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之
時間数	15				実務経験の有無	有
学年・学期配当		1 年次		2 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい		近年、外国人労働者や観光客の増加により、リハの臨床現場においても外国人を対象とする場面が増えており、国際公用語としての英語によるコミュニケーション能力がより必要とされている。本科目では、英会話に慣れること、リハの専門英語を学びながら、診療場面で簡単な挨拶や診療の説明がある程度できることを目的とする。また、臨床上不可欠な英文の文献抄読についてのノウハウも学習する。				
授業全体の内容の概要		診療場面での英会話を学習する。 解剖学用語の英語・ラテン語表記について学び、それらの関連知識を学修する。 英文献を抄読する。 など				
授業修了時の達成課題（到達目標）		診療場面での挨拶、情報収集、診療内容の説明がある程度英語で行える。 リハビリテーション診療に必要な英語の必須語彙・語句を習得する。 関連ソフト等を用いて英文献を抄読できる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	イントロダクション 診療場面の英会話①			教室
	2	講義	診療場面の英会話②			教室
	3	講義	診療場面の英会話③			教室
	4	講義	リハビリテーション専門用語① 解剖学用語			教室
	5	講義	リハビリテーション専門用語② 運動学用語・病理学用語			教室
	6	講義	リーディング①			教室
	7	講義	リーディング②			教室
	8	講義	文献抄読			教室
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		参考図書 シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ「リハビリテーション英語テキスト」 筋骨格器系のキネシオロジー				
評価方法		各セクション終了後の小テストと期末試験（いずれも筆記）で行いますが、最終的には、出席点や授業態度も加味して総合的に判定します。				

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	心理学		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		理学療法は患者の身体的動作能力の改善を目的とする診療技術ではあるが、それは患者の自発的なトレーニングによるところが大きい。障害によって身体能力の低下した患者に効果的な診療を行うためには、患者に寄り添い、精神的に支えることが不可欠となる。すなわち、患者の「こころ」への共感と理解であり、その「こころ」の働きについて講義を通して学習する。				
授業全体の内容の概要		臨床、性格、社会、発達、知覚、認知、記憶、行動など心理学全般に関する事項を幅広く概観する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		心理学全般の基礎的内容を理解すること				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	臨床心理学の範囲、精神分析、行動療法、認知行動療法			教室
	2	講義	カウンセリング、家族療法、芸術療法、非行の心理学			教室
	3	講義	性格とは何か、性格心理学			教室
	4	講義	性格はどうつくられるか、性格の一貫性と変化			教室
	5	講義	社会的行動の心理学、他者の感情、性格の理解、コミュニケーション			教室
	6	講義	集団が人間を変える、群集心理			教室
	7	講義	発達心理学（新生児期、乳児期、幼児期）			教室
	8	講義	知識の獲得（児童期）、思春期の悩み、成人期、中年期、老年期の課題			教室
	9	講義	心理学的アセスメント、心理学的測定の考え方、知能のアセスメント			教室
	10	講義	発達のアセスメント、適性のアセスメント、性格のアセスメント、心理学的アセスメントの問題点			教室
	11	講義	環境をとらえる仕組み、知覚のシステム、知覚とアフォーダンス			教室
	12	講義	記憶の仕組み、認知のバイアス			教室
	13	講義	行動とは何か、学習とは何か、生得的行動、学習される行動			教室
	14	講義	レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ、オペラント条件づけと人間行動			教室
	15	講義	心理学の歴史			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有) ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		『心理学・入門 -- 心理学はこんなに面白い 改訂版』（有斐閣アルマ）				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況、受講態度をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法学概論		学科名	理学療法学科	講師名	森内 康之
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		リハビリテーションにおける理学療法の位置づけや歴史、今後の展望等を紹介する。その中で仕事としての理学療法士の役割ややりがいをイメージし、職業意識やモチベーションの向上を図る。				
授業全体の内容の概要		社会における理学療法士の役割や仕事のやりがい等を感じてもらうため、理学療法の過去・現在・未来について系統的に学習を進め、かつ多角的視点より学習する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		1.リハビリテーションや理学療法の定義やその根拠となる法律等を理解する。 2.対象となる障害を的確に評価する視点を理解する。 3.理学療法（士）の業務や職域を学習し、自らの理学療法士像を明確にする。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	リハビリテーションとの中の理学療法			教室
	2	講義	理学療法の歴史			教室
	3	講義	職域と労働対価			教室
	4	講義	理学療法士に関係する法令制度			教室
	5	講義	理学療法士教育			教室
	6	講義	対象としての障害（1）			教室
	7	講義	対象としての障害（2）			教室
	8	講義	対象としての障害（3）			教室
	9	講義	理学療法評価（1）			教室
	10	講義	理学療法評価（2）			教室
	11	講義	理学療法評価（3）			教室
	12	講義	理学療法における治療（1）			教室
	13	講義	理学療法における治療（2）			教室
	14	講義	理学療法における治療（3）			教室
	15	講義	理学療法の将来展望			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため管理を徹底すること。成績評価は定期試験（60％）及び小テスト・レポート（40％）をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法管理学		学科名	理学療法学科	講師名	日和 将貴
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当			1年次2年次		前期後期通期	
目的・ねらい			目的：医療を取り巻く関連法規を理解することにある。 ねらい：医療関連施設内におけるマネジメントの重要性の理解から、他職種連携におけるリハビリテーションの位置づけを理解することができる。			
授業全体の 内容の概要			リハビリテーション概論や理学療法概論等でも学ぶ「業務管理」について、グループワークを通して理解を深める。早い段階で管理職や起業を見据えることができるようキャリア形成を教育の一環として、説明する。			
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			到達目標： 医療を取り巻く関連法規を理解し、医療関連施設の組織を把握することとする。 自身のキャリア形成と目標立案ができるようこととする。			
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	リハビリテーション科における管理とは			教室
	2	講義	組織化とは			教室
	3	講義	業務管理（1）			教室
	4	講義	業務管理（2）			教室
	5	講義	人事労務管理			教室
	6	講義	教育管理（1）			教室
	7	講義	教育管理（2）			教室
	8	講義	管理者のあるべき姿			教室
	9	講義	リスクマネジメント			教室
	10	講義	経営管理			教室
	11	講義	質の高いリハビリテーションを提供するために			教室
	12	演習	グループワーク			教室
	13	講義	キャリアアップについて			教室
	14	演習	目標立案（グループワーク）			教室
	15	講義	まとめ			教室
		原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等			リハビリテーション管理学 羊土社、2020年 適宜、資料を配布する。			
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価については期末試験90%、出席・平常点10%で判定する。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	リハビリテーション医学		学科名	理学療法学科	講師名	住居 広土
時間数	15時間				実務経験の有無	医師業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		リハビリテーション医学は、理学療法士にとって基礎的な理論であり、必須の実践内容である。理学療法士とリハビリテーション医学の基礎的であり体系的な関係性を学ぶ。				
授業全体の 内容の概要		リハビリテーション医学は、理学療法士には基礎的な理論で、必須の実践内容である。国際障害分類から国際生活機能分類に至る機能・活動・参加の体系を学ぶ。理学療法士とリハビリテーション医学の基礎的であり体系的な関係性を学ぶ。リハビリテーション医学とその他のリハビリテーション分野も体系的に学ぶ。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		リハビリテーション医学は理学療法士には基礎的で必須の実践内容を理解する。国際障害分類から国際生活機能分類に至る機能・活動・参加の体系を理解する。理学療法士とリハビリテーション医学の基礎的と体系的な関係性を理解する。リハビリテーション医学とその他のリハビリテーション分野も体系的に理解する。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	リハビリテーション医学とは何か。			教室
	2	講義	国際障害分類(ICIDH)と国際疾病分類(ICF)			教室
	3	講義	国際生活機能分類(ICF)とリハビリテーション医学			教室
	4	講義	機能障害(Impairment)とリハビリテーション医学的測定			教室
	5	講義	能力低下(Disability)とリハビリテーション医学的評価			教室
	6	講義	リハビリテーション医学における診断と治療			教室
	7	講義	理学療法士とリハビリテーション医学			教室
	8	講義	リハビリテーション医学の総括とテスト			教室
			期末テスト			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 ☒ 有 ☐ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		配布資料とビデオ等を参照する。テキスト・参考図書等は別途に案内する。				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	人間関係論		学科名	理学療法学科	講師名	森内 康之
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次 2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		人と人との関係に基づいて、人間の振る舞いや生活の様々な場面を想定して実践形式で学ぶことが人間関係論です。この授業を通して『自己理解』と『他者理解』を深めて、より良い人間関係を構築していく為に様々な資料を持ち入りながら授業を進めていく。				
授業全体の内容の概要		演習やグループワークを交えながら医療者としての心構えや基本的な姿勢、振る舞い方、コミュニケーション術を習得する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		①礼節を重んじること、②誠実かつ利他的であること、③前向きな態度であること、④円滑でしなやかなコミュニケーションがとれること、⑤人のためになる喜びを知ること 4項目ができることを達成目標とする。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	総論			
	2	講義	PTを志す者の心構え			
	3	講義	社会人としての基本姿勢			
	4	講義	医療従事者としてのふるまい方			
	5	演習	コミュニケーションの実践①			
	6	演習	コミュニケーションの実践②			
	7	演習	コミュニケーションの実践③			
	8	講義	まとめ			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。 レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		資料配布				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、実技試験をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	内科学Ⅱ (臨床薬理学を含む)		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務 (今野)
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		全身的な内科疾患の内、理学療法の対象となる疾患について理解する。 8講以降は、病理学概論の講義となる。				
授業全体の 内容の概要		内科学Ⅰに引き続き、「解剖学」や「生理学」、「病理学」の復習を中心に、症候のメカニズムや各疾患の特徴の捉え方との関連づけを図る。適宜、治療薬についても説明する。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		内科的病気の基礎を知り、リハビリテーションの概要を理解する。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	薬の基礎知識①			教室
	2	講義	薬の基礎知識②			教室
	3	講義	血栓症①			教室
	4	講義	血栓症②			教室
	5	講義	代謝・内分泌疾患①			教室
	6	講義	代謝・内分泌疾患②			教室
	7	講義	代謝・内分泌疾患③			教室
	8	講義	抗炎症薬			教室
	9	講義	栄養素の摂取不足と疾患			教室
	10	講義	循環器の解剖生理（正常洞調律）			教室
	11	講義	循環器疾患（不整脈、他①）			教室
	12	講義	循環器疾患（不整脈、他②）			教室
	13	講義	循環器疾患（不整脈、他③）			教室
	14	講義	循環器疾患（不整脈、他④）			教室
	15	講義	まとめ			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		テキスト・特に指定しない。参考図書・クエスチョンバンク理学療法士作業療法士共通問題				
評価方法		終講試験				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	内科学Ⅱ (臨床薬理学を含む)		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務 (今野)
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		全身的な内科疾患の内、理学療法の対象となる疾患について理解する。 8講以降は、病理学概論の講義となる。				
授業全体の 内容の概要		内科学Ⅰに引き続き、「解剖学」や「生理学」、「病理学」の復習を中心に、症候のメカニズムや各疾患の特徴の捉え方との関連づけを図る。適宜、治療薬についても説明する。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		内科的病気の基礎を知り、リハビリテーションの概要を理解する。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	薬の基礎知識①			教室
	2	講義	薬の基礎知識②			教室
	3	講義	血栓症①			教室
	4	講義	血栓症②			教室
	5	講義	代謝・内分泌疾患①			教室
	6	講義	代謝・内分泌疾患②			教室
	7	講義	代謝・内分泌疾患③			教室
	8	講義	抗炎症薬			教室
	9	講義	栄養素の摂取不足と疾患			教室
	10	講義	循環器の解剖生理（正常洞調律）			教室
	11	講義	循環器疾患（不整脈、他①）			教室
	12	講義	循環器疾患（不整脈、他②）			教室
	13	講義	循環器疾患（不整脈、他③）			教室
	14	講義	循環器疾患（不整脈、他④）			教室
	15	講義	まとめ			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		テキスト・特に指定しない。参考図書・クエスチョンバンク理学療法士作業療法士共通問題				
評価方法		終講試験				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	救急救命医学		学科名	理学療法学科	講師名	大瀬戸 亮平 宮本 淳
時間数	15時間				実務経験の有無	作業療法士業務 理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次 2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		応急処置をはじめとする基本的な救命方法を実践することができる。				
授業全体の 内容の概要		救急救命に必要な基本知識を身につける。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		講義・演習を通して、固定やAED操作を習得。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義/演習	応急手当て（大瀬戸）			教室・実習室
	2	講義	災害時における理学療法士の役割（大瀬戸）			教室・実習室
	3	講義	災害時における理学療法士の役割（大瀬戸）			教室・実習室
	4	演習	生活に役立つ身近な防災情報（大瀬戸）			教室・実習室
	5	演習	生活に役立つ身近な防災情報（大瀬戸）			教室・実習室
	6	演習	AED演習			教室・実習室
	7	演習	AED演習			教室・実習室
	8	演習	AED演習			教室・実習室
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		特定しない。				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況、受講態度をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	整形外科学Ⅰ			学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	30					実務経験の有無	有
学年・学期配当		1 年次		2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		本科目では、整形外科疾患の病態、病因、病態生理、診断、および治療の原則を体系的に理解することを目的とする。理学療法を実践する上で不可欠な、骨・関節・筋肉・神経系の外傷および疾患の医学的な治療に関する知識を修得するとともに、病態や術式から予測される機能障害や合併症、リスク管理に関する専門的知識を解釈する能力を養う。					
授業全体の内容の概要		本講義では、運動器の解剖・生理学的な理解を基盤とし、整形外科疾患の病態、診断、および治療法を体系的に習得する。 総論として、骨・関節・筋・末梢神経などの運動器の機能解剖と、損傷・炎症・変性といった病態生理を解説する。あわせて、医学的な診断プロセスや、保存療法・手術療法の原則について講義を行う。 各論では、全身の運動器疾患について解説する。講義内では、グループワークを通じて理学療法士に求められる整形外科的知識を深める。さらに、病態や治療法に応じたリスク管理を学ぶことで、臨床実習において多職種と連携し、安全かつ根拠に基づいた理学療法を実践するための医学的基礎能力を養う。					
授業修了時の達成課題（到達目標）		・整形外科疾患の基本となる骨・関節、脊髄・末梢神経、筋の正常構造と機能、病態生理を説明できる。 ・整形外科疾患に関する病態・診断法、検査法および治療法を概説できる。 ・理学療法士に必要な整形外科疾患・外傷に関する知識や考え方を理解する					
指導計画	回	形態	内 容				場所
	1	講義	授業オリエンテーション 整形外科総論 運動器の構造と機能（1）				教室
	2	講義	運動器の構造と機能（2）				教室
	3	講義	整形外科的診断法				教室
	4	講義	整形外科的治療法				教室
	5	講義	骨軟骨の病態生理・組織の治癒過程				教室
	6	講義	筋・腱・靱帯の病態生理・組織の治癒過程				教室
	7	講義	外傷学総論				教室
	8	講義	骨折学総論				教室
	9	講義	感染性・非感染性骨関節疾患				教室
	10	講義	代謝性疾患および系統疾患				教室
	11	講義	骨・軟部腫瘍				教室
	12	講義	スポーツ外傷と障害概論				教室
	13	講義	末梢神経障害				教室
	14	講義	ロコモティブシンドローム				教室
	15	講義	まとめ				教室
	16		終講試験				
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。					
テキスト・参考図書等		南江堂 TEXT整形外科第6版 病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第2版					
評価方法		成績評価は、受講態度10％、小テスト30％、終講試験60％の割合で評定を算出する。 実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。 授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。					

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法評価学実習Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	45時間				実務経験の有無	理学療法士として医療機関（病院）にて実務経験あり
学年・学期配当	1年次 2年次			前期	後期	通期
目的・ねらい	理学療法評価を行う上で必要な基礎的な知識および基本的技術を習得する。 本授業では主に理学療法を実施するうえで重要な検査項目である関節可動域測定及び、徒手筋力検査の意義と目的を理解し、各種理学療法評価法の実践的な技術を習得することを目的とする。					
授業全体の内容の概要	関節可動域測定及び徒手筋力検査法の目的・意義を理解し、各測定を実技演習を行うことで実践的に学ぶ。その上で正確な触診やリスク管理、代償動作に留意しながら実践し、臨床場面を想定した演習を行う。					
授業修了時の達成課題（到達目標）	・関節可動域測定の目的、可動域制限因子、測定における基本軸、移動軸、参考可動域について説明できる ・適切な方法で関節可動域測定を実施できる ・徒手筋力検査の目的、判定基準、測定方法、代償運動について説明できる ・適切な方法で徒手筋力検査を実施できる					
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	授業オリエンテーション 理学療法評価に必要な検査・測定の概要			実習室
	2	演習	股関節の評価			実習室
	3	演習	股関節の評価			実習室
	4	演習	膝関節の評価			実習室
	5	演習	膝関節の評価			実習室
	6	演習	肘関節の評価			実習室
	7	演習	肘関節の評価			実習室
	8	演習	手関節の評価			実習室
	9	演習	手関節の評価			実習室
	10	演習	股関節・膝関節・肘関節・手関節の関節可動域測定、徒手筋力検査			実習室
	11	中間テスト	実技試験			実習室
	12	中間テスト	実技試験			実習室
	13	講義・実技	肩関節・肩甲帯の評価			実習室
	14	講義・実技	肩関節・肩甲帯の評価			実習室
	15	講義・実技	肩関節・肩甲帯の評価			実習室
	16	講義・実技	足関節の評価			実習室
	17	講義・実技	足関節の評価			実習室
	18	講義・実技	足関節の評価			実習室
	19	講義・実技	体幹の評価			実習室
	20	講義・実技	体幹の評価			実習室
	21	講義・実技	頸部の評価			実習室

指導計画	22	講義・実技	頸部の評価	実習室
	23	講義・実技	まとめ	実習室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有)・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		Crosslink理学療法学テキスト「理学療法評価学」・ 新・徒手筋力検査第10版 臨床ROM第2版		
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、受講態度10%、小テストまたは課題レポート10%、中間テスト40%、終講試験40%、をもって判定する。中間テスト・終講試験は実技試験として実施する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更、順序の入れ替えをする場合がある。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法評価学総論		学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	30				実務経験の有無	有
学年・学期配当		1年次2年次		前期後期通期		
目的・ねらい		理学療法の臨床場面で必要な基礎的な理学療法評価に関する意義や目的、知識を深める。また、また、理学療法評価を実施する上で必要な検査測定の基本技術および評価について学習し実践することができる。				
授業全体の内容の概要		本講義では、理学療法における評価の意義や目的、流れに関する講義を行う。また、検査・測定に関わる基準数値や判定、リスクについて学習する。 その上で、その具体的な方法について学習し、実技演習を通して実践的な検査測定技術を習得する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		・理学療法評価の意義や目的、基本的な流れを説明できる ・基本的な検査・測定について方法、リスク、基準数値などの概要を説明できる。 ・医療職としての基本的な態度を習得する。 ・基礎的な理学療法検査・測定を健康成人を対象に実施できる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	授業オリエンテーション 理学療法評価学概論			実習室
	2	講義	理学療法評価学概論			実習室
	3	講義	理学療法評価理論、医療面接・インフォームドコンセントについて			実習室
	4	講義・演習	運動系機能障害について			実習室
	5	講義・演習	姿勢評価			実習室
	6	演習	姿勢評価			実習室
	7	演習	形態測定			実習室
	8	演習	形態測定			実習室
	9	講義・演習	形態測定演習			実習室
	10	演習	形態測定演習			実習室
	11	講義・演習	バイタルサイン測定の基礎			実習室
	12	演習	バイタルサイン測定			実習室
	13	演習	バイタルサイン測定の基礎			実習室
	14	演習	バイタルサイン測定			実習室
	15	演習	まとめ			実習室
	テキスト・参考図書等		Crosslink理学療法学テキスト「理学療法評価学」			
評価方法		受講態度10%、小テスト30%、実技試験60%の割合で評点を算出する。 原則、実施された授業回数の1／3以上欠席した場合、終講試験の受験を不可とする。 授業の進捗状況によって授業内容の一部変更や順序の入れ替えを行う場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	病理学概論		学科名	理学療法学科	講師名	笹原 妃佐子
時間数	15時間				実務経験の有無	大学での授業担当
学年・学期配当		1年次2年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		目の前の有病者に対して、先で起こりうる状況を予測し、最適なりハビリテーションの方法を計画・実施していける理学療法士の育成を図る。				
授業全体の内容の概要		退行性病変、炎症など、疾病の様々な病態を学ぶ。また、代表的な疾病について、その病因や本態、転帰、起こり易い臓器等を学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		今後、関連医学として、多くの疾病を学ぶにあたり、その基礎として病理学が重要である。国家試験には直接、病理学として出される問題は少ないが、それらについては、完璧に理解して、解けるようになってほしい。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	病理学の意義、細胞分裂・組織発生			教室
	2	講義	退行性病変・進行性病変			教室
	3	講義	炎症			教室
	4	講義	免疫とその異常			教室
	5	講義	循環障害			教室
	6	講義	腫瘍			教室
	7	講義	老化と代謝性疾患			教室
	8	講義	感染症			教室
テキスト・参考図書等		はじめの一步の病理学				
評価方法		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 無 レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	病理学概論		学科名	理学療法学科	講師名	笹原 妃佐子
時間数	15時間				実務経験の有無	大学での授業担当
学年・学期配当			1 年次 2 年次		前期	後期 通期
目的・ねらい			目の前の有病者に対して、先で起こりうる状況を予測し、最適なリハビリテーションの方法を計画・実施していける理学療法士の育成を図る。			
授業全体の内容の概要			退行性病変、炎症など、疾病の様々な病態を学ぶ。また、代表的な疾病について、その病因や本態、転帰、起こり易い臓器等を学ぶ。			
授業修了時の達成課題（到達目標）			今後、関連医学として、多くの疾病を学ぶにあたり、その基礎として病理学が重要である。国家試験には直接、病理学として出される問題は少ないが、それらについては、完璧に理解して、解けるようになってほしい。			
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	病理学の意義、細胞分裂・組織発生			教室
	2	講義	退行性病変・進行性病変			教室
	3	講義	炎症			教室
	4	講義	免疫とその異常			教室
	5	講義	循環障害			教室
	6	講義	腫瘍			教室
	7	講義	老化と代謝性疾患			教室
	8	講義	感染症			教室
テキスト・参考図書等			はじめの一步の病理学			
評価方法			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 無 レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	神経内科学Ⅱ （画像診断学を含む）		学科名	理学療法学科	講師名	浦川 将 ほか
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当			1 年次 2 年次		前期 後期 通期	
目的・ねらい			リハビリテーションにかかわる神経内科学を理解する。			
授業全体の 内容の概要			中枢神経系および末梢神経系の神経疾患について学ぶ。病気の成り立ちや、各疾患の特徴、リハビリテーションについて理解する。			
授業修了時の 達成課題 （到達目標）			神経内科学の概要と個別の疾患について理解し、神経系損傷患者に対応できる基礎知識を整理する。			
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	脳動脈と脳血管障害（脳動脈・脳脊髄液）			教室
	2	講義	脳動脈と脳血管障害（水頭症、脳血管障害）			教室
	3	講義	脳動脈と脳血管障害（脳梗塞）			教室
	4	講義	脳動脈と脳血管障害（脳梗塞）			教室
	5	講義	脳動脈と脳血管障害（脳内出血）			教室
	6	講義	脳動脈と脳血管障害（脳動脈瘤ほか）			教室
	7	講義	Guillain-Barre症候群、Charcot-Marie-Tooth 病			教室
	8	講義	糖尿病性ニューロパチー、 多発性硬化症（MS）			教室
	9	講義	筋萎縮性側索硬化症（ALS）			教室
	10	講義	Parkinson病			教室
	11	講義	Parkinson病			教室
	12	講義	Parkinson症候群、Huntington病 ほか			教室
	13	講義	脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー			教室
	14	講義	重症筋無力症、Lambert-Eaton症候群			教室
	15	講義	認知症			教室
	16		定期試験			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			病気が見える 7脳・神経			
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、期末試験をもって判定する。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	統計学		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		自然科学をはじめ社会科学や人文科学の諸学問分野において統計学の知識は必要である。本講義では基本的な統計用語を理解し、データの処理、結果を解釈できるように必要な知識を学ぶ。				
授業全体の内容の概要		データの整理の仕方、記述統計（平均、分散等）の理解、確率、母集団、標本抽出、確率分布を学んだうえで、推定、検定といった推測統計学を解説し、演習を行う。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		①基本的な統計用語について理解する。 ②代表的な統計手法（平均値の差の検定など）の結果の読み方について理解する。 ③EXCELソフトを用いて統計解析が行える。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	データの特性把握（データの分類と尺度）			教室
	2	講義	データの特性把握（データの中心とばらつき）			教室
	3	講義	確率分布（正規分布と確立）			教室
	4	講義	仮説検定の考え方			教室
	5	講義	仮説検定の方法			教室
	6	講義・演習	演習①			パソコン室
	7	講義・演習	演習②			パソコン室
	8	講義・演習	演習③			パソコン室
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有、無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		配布資料				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床実習Ⅰ (見学実習)		学科名	理学療法学科	講師名	理学療法学科教員
時間数	45時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1年次2年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		病院・施設の概要を理解し、理学療法部門を含めたチーム医療としての各部門の位置付けを理解する。処方から退院までの理学療法業務の流れを理解する。				
授業全体の 内容の概要		学生は、病院や施設における理学療法士の役割と位置づけについて概観する。また、医療従事者間、医療従事者と患者・利用者間の関係を観察し、コミュニケーション、行動、言語の重要性を体験する。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		理学療法士の業務全般の重要性と各対象者との関わりを見学・体験を通して理解する。 社会人・医療人・専門家として臨床の場にふさわしい基本姿勢を身につける。 理学療法の対象疾患について理解を深め、より具体的にイメージできる。 臨床実習に必要な積極的な学習姿勢を身につける。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	校内ガイダンス			教室
	2	実習	病院・施設実習 グループA：令和8年11月9日（月）～令和8年11月13日（金）			実習地
	3	実習	病院・施設実習 グループB：令和8年11月16日（月）～令和8年11月20日（金）			実習地
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		特に指定しない。				
評価方法		臨床実習先の評価と報告レポートをもとに総合的に判断する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	解剖学実習		学科名	理学療法学科	講師名	浦川 将 ほか
時間数	45時間				実務経験の有無	大学での授業担当
学年・学期配当		1 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		解剖学で得た知識を活用し、他者の人体構造を触診したり内部構造を見学し、人体構造を理解したうえで三次元的構造を体得する。				
授業全体の内容の概要		立体的な肉眼解剖学の構造を理解し、ひとのからだに触れ、臨床技術につながる解剖学を体得する。適宜、口頭試問を行い、理解度を確認する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		理学療法の検査や、運動学の基盤となる解剖学的知識を修得する。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義・実技	骨・関節の名称と触診			
	2	講義・実技	骨・関節の名称と触診			
	3	講義・実技	筋の名称と起始・停止、触診			
	4	講義・実技	筋の名称と起始・停止、触診			
	5	講義・実技	末梢神経と脈管の走行、触診			
	6	講義・実技	末梢神経と脈管の走行、触診			
	7	講義・実習	骨学、筋の起始・停止、支配神経、触診（頭頸部、体幹、骨盤）10階実習室			
	8	講義・実習	骨学、筋の起始・停止、支配神経、触診（頭頸部、体幹、骨盤）10階実習室			
	9	講義・実習	骨学、筋の起始・停止、支配神経、触診（上肢、下肢）10階実習室			
	10	講義・実習	骨学、筋の起始・停止、支配神経、触診（上肢、下肢）10階実習室			
	11	講義・実習	解剖見学実習（表皮、皮下組織、皮神経）解剖実習棟			
	12	講義・実習	解剖見学実習（表皮、皮下組織、皮神経）解剖実習棟			
	13	講義・実習	脳、脳血管（脳標本、ウィリス動脈輪）解剖実習棟			
	14	講義・実習	脳、脳血管（脳標本、ウィリス動脈輪）解剖実習棟			
	15	講義・実習	解剖見学実習（腕神経叢、胸部臓器、腹部臓器）解剖実習棟			
	16	講義・実習	解剖見学実習（腕神経叢、胸部臓器、腹部臓器）解剖実習棟			
	17	講義・実習	解剖見学実習（摘出臓器、神経、脈管）解剖実習棟			
	18	講義・実習	解剖見学実習（摘出臓器、神経、脈管）解剖実習棟			
	19	講義・実習	解剖見学実習（四肢の筋、神経、脈管：腹臥位）解剖実習棟			
	20	講義・実習	解剖見学実習（四肢の筋、神経、脈管：腹臥位）解剖実習棟			

	21	講義・実習	解剖見学実習（四肢の筋、神経、脈管：背臥位）解剖実習棟
指導計画	22	講義・実習	解剖見学実習（四肢の筋、神経、脈管：背臥位）解剖実習棟
	23		試験
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）
テキスト・参考図書等		Crosslink basic リハビリテーションテキスト 解剖学 MEDICAL VIEW あたらしい人体解剖学アトラス 第2版 佐藤達夫訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル	
評価方法		実習時間の口頭試問と筆記試験により評価	

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	運動学		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	60時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		各関節の名称・形状・筋肉・運動について学習する。運動・動作の中で筋肉や関節がどのように関与しているのかを学ぶ。				
授業全体の内容の概要		運動学に必要な力学、四肢・体幹の個々の運動と機能を理解して、多くの関節が関与する動作へ繋げて学習する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		四肢、体幹の運動学的特徴を理解し、場所を示すことができる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	脊柱・骨盤①			教室
	2	講義	脊柱・骨盤②			教室
	3	講義	脊柱・骨盤③			教室
	4	講義	上肢帯①			教室
	5	講義	上肢帯②			教室
	6	講義	上肢帯③			教室
	7	講義	肩甲上腕関節①			教室
	8	講義	肩甲上腕関節②			教室
	9	講義	肩甲上腕関節③			教室
	10	講義	肩甲上腕関節④			教室
	11	講義	肘・前腕①			教室
	12	講義	肘・前腕②			教室
	13	講義	手部①			教室
	14	講義	手部②			教室
	15	講義	まとめテスト（1～14講）			教室
	16	講義	股関節の運動学①			教室
	17	講義	股関節の運動学②			教室
	18	講義	股関節の運動学③			教室
	19	講義	股関節の運動学④			教室
	20	講義	膝関節の運動学①			教室

	21	講義	膝関節の運動学②	教室
指導計画	22	講義	膝関節の運動学③	教室
	23	講義	膝関節の運動学④	教室
	24	講義	足関節の運動学①	教室
	25	講義	足関節の運動学②	教室
	26	講義	足関節の運動学③	教室
	27	講義	歩行①	教室
	28	講義	歩行②	教室
	29	講義	歩行③	教室
	30	講義	まとめ（16～29）	教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		テキスト：筋骨格系のキネシオロジー		
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、単元ごとの小テスト、筆記試験（中間・終講）をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	運動療法学		学科名	理学療法学科	講師名	宮本 淳
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		運動療法学は、理学療法において中心的な治療手技であり、理学療法士が必ず習得していなければならない基本的技術である。運動療法の目的、原理を理解し、まずは基本的な知識・技術を理解する。				
授業全体の内容の概要		運動療法学では、理学療法において重要な部分を占める運動療法の基礎知識を学ぶ。理学療法における運動療法の位置づけ、筋収縮の様式、関節可動域運動や筋力増強運動などの基本的な運動療法の目的と手段、対象、適応について学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		①基本的な運動療法の原理を理解する ②基本的な運動療法の技術を理解する ③代表的な運動療法を理解する ④応用的な運動療法の一部を理解する				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	運動療法学総論①ー運動療法の定義と特徴・分類			教室
	2	講義	運動療法学総論②ー運動療法の適応と禁忌・手順			教室
	3	講義	筋機能と運動療法ー筋の構造と機能①			教室
	4	講義	筋機能と運動療法ー筋の構造と機能②			教室
	5	講義	関節可動域と運動療法ー関節構造と機能①			教室
	6	講義	関節可動域と運動療法ー関節構造と機能②			教室
	7	講義	バランス機能と運動療法ー姿勢動作におけるバランス機能①			教室
	8	講義	バランス機能と運動療法ー姿勢動作におけるバランス機能②			教室
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		Cross link 理学療法テキスト 運動療法学				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、期末試験、出席状況、受講態度をもって判定する。期末試験は、筆記試験を実施する。				

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	運動療法学実習		学科名	理学療法学科	講師名	宮本 淳	
時間数	45時間				実務経験の有無	理学療法士業務	
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期	後期	通期	
目的・ねらい		運動療法学は、理学療法において中心的な治療の方法であり、理学療法士が必ず習得していなければならない基本的技術である。運動療法学は対象となる疾患により様々な方法があるが、基本的な技術のうえにそれぞれ構築されている。ここでは、運動療法学で学んだ基礎知識を活かし、各領域での理解を深めていく。					
授業全体の内容の概要		種々の疾患に共通する機能障害や能力低下に対する基本的な運動療法学について学び、実践する能力を養う。					
授業修了時の達成課題（到達目標）		①運動療法の目的を理解する。 ②各種治療方法の目的を理解し手技を実行できる。					
指導計画	回	形態	内 容			場所	
	1	実習	触診技術（肩甲帯・上腕）			実習室	
	2	実習	触診技術（肩甲帯・上腕）			実習室	
	3	実習	触診技術（前腕部・手指）			実習室	
	4	実習	触診技術（前腕部・手指）			実習室	
	5	実習	触診技術（下腿前面・後面）			実習室	
	6	実習	触診技術（下腿前面・後面）			実習室	
	7	実習	触診技術（大腿前面・後面）			実習室	
	8	実習	触診技術（大腿前面・後面）			実習室	
	9	実習	触診技術（足部）			実習室	
	10	実習	触診技術（体幹・骨盤）			実習室	
	11	実習	触診技術（体幹・骨盤）			実習室	
	12	実習	触診技術（頭頸部）			実習室	
	13	実習	触診技術（頭頸部）			実習室	
	14	実習	触診技術・関節可動域運動			実習室	
	15	実習	触診技術・関節可動域運動			実習室	
	16	実習	触診技術・関節可動域運動			実習室	
	17	実習	バランス機能と運動療法学①			実習室	
	18	実習	バランス機能と運動療法学②			実習室	
	19	実習	加齢による運動機能変化と運動療法学①			実習室	
	20	実習	加齢による運動機能変化と運動療法学②			実習室	

指導計画	21	実習	基本動作と運動療法①	実習室
	22	実習	基本動作と運動療法②	実習室
	23	実習	まとめ	実習室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		運動療法のための機能解剖学的触診技術 Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学		
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。 成績評価は、終講試験、をもって判定する。終講試験は、実技試験と筆記試験を実施する。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	キャリア教育学		学科名	理学療法学科	講師名	山本 圭佑 宮本 淳
時間数	45時間				実務経験の有無	ITインストラクター 理学療法士業務
学年・学期配当	1 年次			前期	後期	通期
目的・ねらい	Word・Excel・PowerPointの基本的な操作を身に付け、社会における基礎PCスキル習得を目指す 理学療法士が所属する関連団体についての理解 理学療法士の多様性について理解 臨床実習の必要性について理解					
授業全体の 内容の概要	Word・Excel・PowerPoint・メール等の基本的操作の学習 理学療法士連盟についての講演会 グループワークを通して職業理解と進路選択について考える 臨床実習の必要性について理解と事前準備					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)	- Word・Excel・PowerPoint・メール等の基本的操作の習得する - 理学療法士連盟について理解する。 - 理学療法士の多様性を理解する。 - 臨床実習の必要性について理解する。					
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	OSのPC基本操作 タイピング			パソコン室
	2	講義	タイピング Excelの基本的な表作成 デザイン			パソコン室
	3	講義	タイピング Excelの基本的な表計算 デザイン			パソコン室
	4	講義	タイピング Wordの基本的な文書作成			パソコン室
	5	講義	タイピング Wordの基本的な文書作成 画像の取り扱い			パソコン室
	6	講義	タイピング Wordの基本的な文書作成 表の取り扱い			パソコン室
	7	講義	タイピング Wordの基本的な文書作成 レイアウト			パソコン室
	8	講義	タイピング Wordの総合演習			パソコン室
	9	講義	タイピング PowerPointの基本的なスライド作成			パソコン室
	10	講義	タイピング PowerPoint スライドデザイン			パソコン室
	11	講義	タイピング PowerPoint プレゼンテーション			パソコン室
	12	講義	タイピング メールの基本操作・マナー			パソコン室
	13	講義	タイピング officeソフトから出力・変換			パソコン室
	14	講義	officeソフト総合演習			パソコン室
	15	講義	officeソフト総合演習			パソコン室
	16	講義	理学療法士連盟について			教室
	17	講義	理学療法士のキャリアについて			教室
	18	講義	理学療法士の働く場所			教室
	19	講義	理学療法の科目について考える①			教室
	20	講義	理学療法の科目について考える②			教室
	21	講義	臨床実習について考える			教室

指導計画	22	講義	臨床実習 事前準備①	教室
	23	講義	臨床実習 事前準備②	教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 ☒ ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）	
	テキスト・参考図書等		なし	
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。 成績評価は、実技試験、出席状況、レポートをもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	基礎医学演習Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1年次2年次		前期後期通期		
目的・ねらい		解剖学や生理学といった医学の基盤分野を学習することで、人体の構造や機能・メカニズムについて理解する。				
授業全体の内容の概要		筋骨格器系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、消化器系を中心に基礎医学を学修する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		病気の原因や発症から治癒への経過を理解するための基礎知識が理解できる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	呼吸器			教室
	2	講義	腎・泌尿器			教室
	3	講義	酸塩基平衡			教室
	4	講義	循環器			教室
	5	講義	内分泌器官			教室
	6	講義	免疫細胞の種類とその役割 自然免疫と獲得免疫			教室
	7	講義	獲得免疫：細胞性免疫と液性免疫の特徴と役割			教室
	8	講義	免疫異常：アレルギーの5つのタイプ			教室
	9	講義	生命活動を支える物質とエネルギー			教室
	10	講義	骨格筋のタイプ・運動単位			教室
	11	講義	筋収縮の滑走説			教室
	12	講義	エネルギー供給系・無酸素系			教室
	13	講義	エネルギー供給系・有酸素系			教室
	14	講義	筋収縮の分類、骨格筋の長さ-張力関係			教室
	15	講義	まとめ			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・無しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		特に指定しない。				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況、受講態度をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生理学実習		学科名	理学療法学科	講師名	井崎 義己
	45時間				実務経験の有無	病院ならびに介護老人保健施設・通所リハビリテーションの経験有
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		理学療法評価ならびに治療の基礎となる疾患や障害を把握・理解するためには、身体の構造や働きを知ることが必須である。演習を取り入れながら、「解剖生理学」の知識の定着および理解の促進を図る。また、機器等を使用する計測や検者・被検者等の体験を通して、理解をより良いものにしていく。				
授業全体の内容の概要		できる限り「生理学」と連動し、演習を取り入れながら実施する。運動器に関しては自らの身体を使いながら、構造や働きを立体的に理解する。また、感覚器については、理解を深めるために検査法を体験する。呼吸や循環については、でき得る限り、機器等を使って計測を体験する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		1. スムーズに正確な脈拍や血圧の測定ができる。 2. 運動器、感覚器の構造ならびに働きを理解する。 3. 運動療法の基礎となる運動生理の概要を理解する。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	演習	第8章 循環：脈拍、血圧に関する基本事項の確認			教室
	2	講義・実技	第8章 循環：脈拍、血圧測定（※計測の大前提を概説）			教室
	3	演習	第9章 呼吸：呼吸器系の構造に関する基本事項の確認			教室
	4	講義・実技	第9章 呼吸：スパイロメーター検査、酸素飽和度測定			教室
	5	演習	第9章 呼吸：ガス交換、呼吸の調節等に関する基本事項の確認			教室
	6	講義・演習	第6章 感覚：感覚の分類、閾値、伝導路			教室
	7	講義・実技	第6章 感覚：体性感覚（温度覚、痛覚、触覚）の検査			教室
	8	講義	第5章 骨：骨・軟骨・関節の構造と働き			教室
	9	講義・実技	第5章 骨：頭部・顔面、上肢の骨			教室
	10	講義・実技	第5章 骨：下肢、脊柱の骨			教室
	11	演習	第11章 消化と吸収：消化・吸収に関する基本事項の確認			教室
	12	演習	第10章 排泄：腎臓の構造と機能に関する基本事項の確認			教室
	13	講義	第5章 筋：骨格筋の構造、神経支配、収縮のメカニズム			教室
	14	講義・実技	第5章 筋：顔面・上肢の筋			教室
	15	講義・実技	第5章 筋：下肢・体幹の筋			教室
	16	演習	第13章 内分泌：内分泌に関する基本事項の確認			教室
	17	講義	第15章 運動生理：筋力・持久力、筋収縮のエネルギー源			教室
	18	講義	第15章 運動生理：運動に伴う全身の変化、トレーニング効果、加齢変化			教室
	19	演習	第3章 末梢神経：末梢神経系に関する基本事項の確認			教室
	20	演習	第4章 中枢神経：大脳に関する基本事項の確認			教室
21	演習	第4章 中枢神経：大脳基底核や小脳に関する基本事項の確認			教室	

指導計画	22	演習	第4章 中枢神経：脊髄に関する基本事項の確認	教室
	23	演習	第4章 中枢神経：反射に関する基本事項の確認	教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 ☒ 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等			標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 生理学（医学書院） からだが見える 人体の構造と機能（メディックメディア） 演習資料	
評価方法			第5章、第6章、第15章の確認テスト〔40%〕および定期試験（筆記試験）を実施する〔60%〕。それを合計（100%〔100点満点〕）して評価点とする。その評価点で60点以上を合格とする。	

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	神経内科学Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	浦川 将 ほか
時間数	30時間				実務経験の有無	大学での授業担当
学年・学期配当			1 年次 2 年次		前期 後期 通期	
目的・ねらい			リハビリテーションにかかわる神経内科学を理解する。			
授業全体の 内容の概要			中枢神経系および末梢神経系の神経疾患について学ぶ。神経解剖や神経生理学など、疾患を理解するための必要知識を習得する。			
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			神経内科学の概要と個別の疾患について理解し、神経系損傷患者に対応できうる基礎知識を整理する。			
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	神経系の構造と機能（大脳の構造）			教室
	2	講義	神経系の構造と機能（大脳皮質）			教室
	3	講義	神経系の構造と機能（辺縁系、基底核）			教室
	4	講義	神経系の構造と機能（脳幹、小脳）			教室
	5	講義	運動・感覚・自律神経（運動の伝導路）			教室
	6	講義	運動・感覚・自律神経（運動異常、検査）			教室
	7	講義	運動・感覚・自律神経（感覚の伝導路、検査）			教室
	8	講義	運動・感覚・自律神経（自律神経）			教室
	9	講義	脳神経とその障害（脳神経全体、嗅覚・視覚・眼球運動）			教室
	10	講義	脳神経とその障害（三叉～内耳神経）			教室
	11	講義	脳神経とその障害（舌咽～舌下神経）			教室
	12	講義	脊髄とその障害（全体像、血管支配）			教室
	13	講義	脊髄とその障害（脊髄AVMと空洞症）			教室
	14	講義	末梢神経とその障害（全体像、デルマトーム）			教室
	15	講義	末梢神経とその障害（絞扼・圧迫性ニューロパチー）			教室
	16		定期試験			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			病気が見える 7脳・神経			
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、期末試験をもって判定する。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	解剖学		学科名	理学療法学科	講師名	浦川 将 ほか	
時間数	60時間				実務経験の有無	大学での授業担当	
学年・学期配当			1 年次2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい			理学療法を実施する上で必要不可欠な解剖学の知識を習得する。				
授業全体の 内容の概要			解剖学の基礎的知識、筋骨格系、神経系について学ぶ。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			解剖学の基礎的知識として、細胞や組織に関すること、筋骨格系/神経系の解剖学的知識を理解している。				
指導計画	回	形態	内 容				場所
	1	講義	解剖学総論				教室
	2	講義	骨系（骨格）総論、脊柱～骨盤				教室
	3	講義	骨系（骨格）上肢、下肢、頭蓋骨				教室
	4	講義	関節 総論、脊柱				教室
	5	講義	関節 上肢、下肢、頭蓋骨				教室
	6	講義	筋系 総論				教室
	7	講義	筋系 上肢帯～上腕				教室
	8	講義	筋系 前腕～手部				教室
	9	講義	筋系 下肢帯～大腿				教室
	10	講義	筋系 下腿～足部				教室
	11	講義	筋系 頭頸部、体幹				教室
	12	講義	神経系 総論、中枢神経				教室
	13	講義	神経系 末梢神経（脊髄神経）				教室
	14	講義	神経系 末梢神経（自律神経、脳神経）、伝導路				教室
	15	講義	授業のまとめ、筆記試験				教室
	16	講義	筋-末梢神経復習 頭頸部 上肢				教室
	17	講義	筋-末梢神経復習 下肢 体幹				教室
	18	講義	筋-末梢神経まとめ 復習テスト				教室
	19	講義	感覚器系 外皮など				教室
	20	講義	感覚器系 平衡感覚器など				教室
21	講義	循環器系 心臓 動脈				教室	

指導計画	22	講義	循環器系 静脈 リンパ	教室
	23	講義	呼吸器系 外呼吸 上/下気道	教室
	24	講義	呼吸器系 肺の形態 組織構造	教室
	25	講義	消化器系 口腔～胃	教室
	26	講義	消化器系 小腸大腸 肝臓 腹膜	教室
	27	講義	泌尿器系	教室
	28	講義	生殖器系	教室
	29	講義	内分泌系	教室
	30	試験	授業のまとめ	教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		Crosslink basic リハビリテーションテキスト 解剖学 MEDICAL VIEW あたらしい人体解剖学アトラス 第2版 佐藤達夫訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル		
評価方法		期末試験の点数で評価		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生理学			学科名	理学療法学科	講師名	井崎 義己
時間数	60時間					実務経験の有無	病院ならびに介護老人保健施設・通所リハビリテーションの経験有
学年・学期配当		1 年次2 年次			前期	後期	通期
目的・ねらい		理学療法評価ならびに治療の基礎となる疾患や障害を把握・理解するためには、身体の構造や働きを知ることが必須である。疾患や障害をより良く理解するために、各臓器や器官の働きを系統的に学習する。また、見事な身体のしくみを学習することで身体についての興味や関心を向上させる。					
授業全体の内容の概要		各臓器や器官の働きはもちろんのこと、生理学的分類に沿って正常な系統的メカニズムについて紹介・教授する。でき得る限り、マクロ面（全体的な関わり）とミクロ面（組織・細胞レベルの働き）を混在しないように進めていく。					
授業修了時の達成課題（到達目標）		1. 広義の代謝（呼吸・循環・消化系等）の概要が理解できる。 2. ホメオスタシスに關与する自律神経系と内分泌系の働きが理解できる。					
指導計画	回	形態	内 容				場所
	1	講義	第1章 生理学総論（1）：組織、エネルギー産生、物質の移動、体温調節、ホメオスタシス				教室
	2	講義	第2章 生理学総論（2）：細胞の構造と機能、静止膜電位と活動電位				教室
	3	講義	第7章 血液（1）：血液の組成と機能、赤血球				教室
	4	講義	第7章 血液（2）：白血球、血小板、血漿、血液型				教室
	5	講義	第8章 循環（1）：血液の循環（心臓の構造と働き）				教室
	6	講義	第8章 循環（2）：血液の循環（全身の循環経路）				教室
	7	講義	第8章 循環（3）：心臓の興奮と刺激伝導系、心電図				教室
	8	講義	第8章 循環（4）：血液の拍出、血圧				教室
	9	講義	第8章 循環（5）：浮腫、静脈還流、臓器循環、リンパの循環				教室
	10	講義	第9章 呼吸（1）：外呼吸と内呼吸、気道と肺胞				教室
	11	講義	第9章 呼吸（2）：呼吸運動、呼吸気量、ガス交換				教室
	12	講義	第9章 呼吸（3）：呼吸の調節、病的呼吸				教室
	13	講義	第11章 消化と吸収（1）：消化器の構造と役割（咀嚼・嚥下、胃・腸の消化）				教室
	14	講義	第11章 消化と吸収（2）：消化器の構造と役割（腸における吸収）、排便反射、肝臓の役割				教室
	15	講義	前期のまとめ ※確認テスト				教室
	16	講義	第10章 尿の生成と排泄（1）：腎臓の構造				教室
	17	講義	第10章 尿の生成と排泄（2）：腎臓の役割				教室
	18	講義	第10章 尿の生成と排泄（3）：腎臓の検査、排尿反射と神経因性膀胱				教室
	19	講義	第10章 尿の生成と排泄（4）：酸塩基平衡				教室
	20	講義	第14章 代謝（1）：栄養素と代謝				教室

指導計画	21	講義	第14章 代謝（2）：エネルギー代謝	教室
	22	講義	第13章 内分泌（1）：内分泌腺と分泌されるホルモンの種類、役割①	教室
	23	講義	第13章 内分泌（2）：内分泌腺と分泌されるホルモンの種類、役割②、分泌異常	教室
	24	講義	第3章 末梢神経（1）：ニューロン、神経の興奮と伝導、末梢神経の種類	教室
	25	講義	第3章 末梢神経（2）：シナプスの構造と興奮の伝達、神経伝達物質	教室
	26	講義	第3章 末梢神経（3）：自律神経	教室
	27	講義	第4章 中枢神経（1）：大脳の構造と機能	教室
	28	講義	第4章 中枢神経（2）：大脳基底核、大脳辺縁系、血液脳関門、小脳の構造と機能	教室
	29	講義	第4章 中枢神経（3）：脊髄の構造と伝導路	教室
	30	講義	第4章 中枢神経（4）：脊髄・脳幹の機能と反射	教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等			標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 生理学 （医学書院） からだが見える 人体の構造と機能（メディックメディア）	
評価方法			前期・後期に定期試験（筆記試験）を実施する。それらの合計（100%〔100点満点〕）を評価点とする。 その評価点で60点以上を合格とする。	

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）